



# あらゆる生徒に似合う 制服を求めて

## ～男女共学再開に向けた新制服の選定～

広島工業大学高等学校 全日制課程  
教諭 土井 真紀

### 制服検討委員会結成

平成29年度からの男女共学再開にあたって、制服検討委員を拝命したのが平成27年12月のこと。フルモデルチェンジの場合、一般的に検討に1年程度はかけるものだが、3月末には決定しなければならず、与えられた期間はずか4か月という短いものだった。毎週1回のペースで会議を開くタイトなスケジュールの中、制服の販売代理店や学生服メーカーの力をお借りして、新制服の選定を進めた。

検討委員会は5名で構成された。当時男子校であった広島工業大学高等学校全日制課程には女性教員が極めて少なかったため、女性事務職員1名にメンバーに加わっていただき、またほかの数少ない女性教職員にも折々に意見をいただくことで、女性の視点をふんだんに取入れた制服を作ることを目指した。

### 基本的なコンセプト

38年ぶりの女子生徒募集再開にあたり、共学校としての本校の新しい歴史を創り出してゆく生徒のための制服を選定する大きな柱として、「生徒の目から見た格好よさ」と、「大人の目から見た感じのよさ」の両立を据えた。

その上で、近隣の高校、中でも近年共学化した学校との明確な差別化を意識し、さらに工科系大学の付属校という本校の特性を鑑み、要となる女子生徒の制服について、「かわいらしく」見せることよりも「知的」に見せることを選んだ。

大前提として、制服はすべての生

徒が着るものであるから、あらゆる生徒に似合うものでなければならない。そこで、奇をてらって個性的なデザインに走るのではなく、テーラードジャケットとスラックスまたはスカートという、ごくオーソドックスな型で進めていくことを決定した。学校生活以外に、冠婚葬祭の場にも対応できるよう、また大学入試の面接やリクルートの際にも、場の雰囲気にならないう、大人っぽく上品な雰囲気を重視することも確認した。

### 新制服決定に向けて

平成28年の年明けから、岡山にある学生服メーカーを何度か訪れ、その度に長時間かけて大量の制服サンプルを検討し、あれこれと無理なお願いも重ね、3月に三つのパターンの試作品が完成した。いずれも検討委員会でごだわりを持って選定したものであったが、職員会議での検討を経て、最終的に「どんな生徒が着ても似合うであろう制服」ということで選ばれたのが、右の写真の制服である。

### 検討委員会のこだわり

この制服はシックで落ち着いた印象の中にも細かい仕様と機能にこだわり、「工大高」を発信するオリジナル性の高いデザインとなっている。

遠目には黒無地にも見えるが、チャコールグレーという濃いグレーを採用した。中でも主に女子のボトムは光の反射によって模様が浮き上がって見える、昼夜柄と呼ばれる織りを用いている。一見シンプルだが、近くで見るとラ

インが入っており、奥ゆかしい上質さを演出した。エンジ色のネクタイも同様に近くで見るとチェック柄が入っている。

スクールカラーであるエンジ色は、ボトムのラインや、靴下のイニシャル、エンブレムにも差し色としてあしらい、統一感を出すよう意識した。同様に「工大高」のイニシャル「K」も随所にデザインした。

ネクタイは、高校生の制服では一般的なワンタッチタイプではなく、敢えて自分できちんと結ぶノーマルタイプを選択し、新入生登校日に「春休みの間に自分で結べるようになる」ことを宿題とするという提案をした。女子も正装はネクタイとし、オプションで同柄のリボンを用意した。

また、白いシャツは清潔感があるが、濃い色の制服と合すると子どもっぽくなるため、爽やかで大人っぽいカラーシャツを採用した。

ほかにも、旧制服はコストパフォーマンスに優れ、生徒や保護者の満足度が高かったため、新制服も同様のコストパフォーマンスを追求した。加えて機能性も重視し、家庭での手入れを簡単にするため、新機能や新素材にこだわった。

### 生徒指導という視点

共学再開にあたり、私たち教職員の大きな不安の一つに「女子生徒への生活指導」があった。そこで「指導のし易さ」という観点も制服に盛り込んだ。

スカート丈の指導を念頭に置き、巻き上げ防止を目的としたサイドの飾りベルトや、裾切り防止を目的とした裾の

ライン、ひだ裏に施した刺繍など、工夫を重ねた。

シャツは第二ボタンの位置を高めに設定し、ネクタイをしていない時に開けてもだらしないように配慮した。また、夏にウエストラインを隠すためにシャツの裾を出さないように、サマーベストの採用も決定した。

### エンブレムに込めた思い

旧制服のエンブレムには校章がデザインされていたが、新制服選定にあたり、敢えてそれを変更することで「新しい工大高」を演出した。

英語表記の正式名称である「Hiroshima Institute of Technology Senior High School」の頭文字から、「HITS」high schoolとし、大学の「HIT」と区別しつつも、高大連携を意識した。

また、クラブ活動などでこれからも全国の舞台に出て行くことを想定し、エ



ンジのリボンに「HIROSHIMA」のデザインをあしらった。

### 私学らしさ

この新制服では、自由購入のオプションを設定し、着こなしのバリエーションを広げることで、私学らしさをアピールした。

私服である正装でかっちりしたイメージを演出する分、オプションでは女子にセーラージャケットを採用し、女性らしい柔らかさを大切にしたい。

中でもキュロットの採用は広島地区ではまだ珍しい試みであった。自転車通学の際にめくれ上がらず、足さばきも楽だという生徒の声も聞こえるが、それ以上に防犯、安全面を重視される保護者や中学校、塾の先生方に好評である。

### 試着会

平成28年7月、本校の第1回オープンスクールで、女子生徒対象の制服試着会を実施し、約140名の女子中学生を、販売代理店の女性スタッフにもお手伝いいただきながら、女性教職員総出で迎えた。

鏡に映る自身の制服姿を嬉しそうに見ている中学生たちの横顔が少し大人びて見えること、シンプルゆえにどんな生徒にもきちんと似合っていることが確認でき、肩の荷が少し下りたような気がした。

### そして、入学式

予想を超える586名という新入生を迎えた今年の入学式。久しぶりの担任として緊張して迎えた当日の朝、続々と登校してくる新入生を見て、やはりどの生徒にもよく似合っていることを実感し、この制服の選定がねらいから外れたものではなかったことを確信した。本校MSC(メモリアルスポーツセンター)を埋め尽くす新入生の制服姿は壮観であった。

あれから4か月、実際に学校生活が始まってみると、想定していなかった状況が生まれることもあり、問題が無いわけでは勿論無いが、この一年をかけてじっくり生徒の様子を見ながら、この制服を、生徒の高校生活に彩りを添えることのできる、よりよいものにしていきたいと思う。